

質問と回答（案）

・障害を持っているお子様やそのご家族と信頼関係を築く上で、大切にしている心がけがあれば教えていただきたいです。	「何かを伝える」発想より「話を聴く」「知りたい」「教えてもらう」を優先する。子どもであれば、「行動」をほめるより「人格」をほめる。
・小学1年生の児童だと、知的障害が重い子供の理解がまだ難しいなと思っています。1年生などのまだ理解が難しい児童に対してどのように教えていけばよいのでしょうか？	基本的には無理だと考えます。何を教える（教えたい）かを明確に持つておくこと。自分も重度の子も「自分を大切な存在だ」と認識すること、また、お互いが「相手のことを大切」にしようとする。平等と公平
・視覚優位の特性を持ち、個別支援を実施しても周辺環境への注意散漫が改善されない子どもに対し、どのような支援アプローチが効果的か。	まずは、なぜ注意散漫が起きているのかのアセスメント（見立て）を丁寧に行う。「改善」ありきではなく、「わかる」を優先する。わかったあとに、分化強化の考え方を活用して支援する。注意持続の時間、程度の基準をクリアしていくことを評価する。このとき、記録が重要。（分析）
・支援をする中で、常に心がけていた方がいいことは何かありますか？	支援は、いずれ「減らす」ことを常に（最初から）心がけておく。
・児童指導員ができる保護者支援とは？	①聴く、②質問する、③一緒に悩む、④一緒に考える、⑤情報提供する、⑥つなぐ（人・関係機関・学びの場）この優先順位でかわる。
・他害や口が悪い、大声で叫ぶ、下品な言葉を使う、負けると怒る、癇癪を起こすなどの児童への対応を教えてください。その場は治められても再び同様の行動を起こすことが多く、支援できてるとは言えないのではと感じるからです。	チャレンジング行動を減らす対応は、環境調整とかかわり。「気持ちはわかる」でも、「方法がまずい」。①このチャレンジング行動について、本人との取り組み、約束が合意されている場合：しかるもあり。②そうでない場合：否定からはいらず、まずは「受け止める第一声」を練習しておく。「同様の行動を起こす」中身を細かく分析する。同様であっても、改善された程度はないか？ その行動の頻度は低くなっているか？ 治まった時間が短くなったか？などを分析。これがほめどころになる。療育とは、できないことをできるようにする + ほめどころをつくる（見える化する）作業。
・「お片付けだよ」と声をかけると嫌がって逃げてしまったり、怒ったりする子に対して、どのように対応するのが良いのでしょうか。	一般的な原則論で行くと、 ①活動前、スタート時に、おわりの見通しをもってもらう（口頭、視覚） ②指示 → ③再指示 → ④警告 → 罰（※罰には、1か0もあるが、タイムアウトや0.5減などの中途罰もある）
・試し行動をしてきた児童に対して、どのような接し方が適切なのかが知りたい。	試し行動と明確にわかる場合：その気持ちを受け止める（受け入れはしない） → 社会的に、あるいは人として受け入れることができる行動を教える（この方法だったら許せる） → ここで教えた（合意した）行動ができたことを強化する（またやろうとすることを後押し）